

おう ぱく しゅう

黄 璧 宗 東 光 寺

「みどころ」

- 明末、清初の中国風の雄大華麗な建築美
- 春蘭秋菊の美を競う諸堂の扁額、柱聯にみる黄璧墨跡
- 静寂、そして幾何学美をもつ毛利氏廟所

「沿革」

萩市大字椿東字椎原にあり山号を護国山といい、元禄4年（1691）萩藩三代藩主毛利吉就が建立しました。吉就是若くして深く黄璧宗（おうぱくしゅう 禅宗の一派）に帰依して、京都府宇治市、本山黄璧山万福寺に範を求めて広壯な堂宇を建立し、萩出身の高僧慧極道明禅師を開山に迎えました。

吉就の歿後ここに墓所を営み、毛利氏菩提寺となりました。黄璧三叢林の隨一と称えられ、文化年間の最盛時には全山塔40棟を数えたといいます。

「建築物」

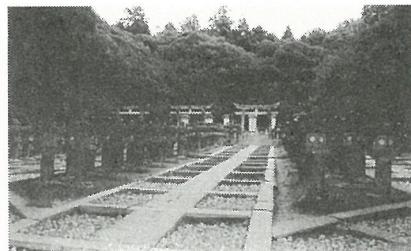


中国の明時代の末から清時代の初めにかけての黄璧伽藍様式で、伽藍配置は龍の形を表わしたものと伝えられています。

- | | | | |
|--------|-----|----------------|-------|
| ①總 | 門 | 元禄6年（1693）頃の建立 | 重要文化財 |
| ②三 | 門 | 文化9年（1812）建立 | 重要文化財 |
| ③鐘 | 樓 | 元禄7年（1694）頃の建立 | 重要文化財 |
| ④大 | 雄宝殿 | 元禄11年（1698）建立 | 重要文化財 |
| ⑤大方丈書院 | | 寛政4年（1792）建立 | |

「毛利氏廟所」

萩藩主3代吉就、5代吉元、7代重就、9代斉房、11代斉元並びに各夫人10基の外、枝葉近親者20余基があり、藩主五公、吉元の嗣子宗元の業蹟を記した神道石碑6基、華表5基、重臣諸家により献上した石灯籠約500基が整然と立ち並び、周囲には老杉檜の大樹が生い茂り森厳な靈域であります。



「元治甲子殉難烈士墓所」

元治元年（1864）京都禁門の変の際、幕府に謝罪の為、徳山で自刃した益田右衛門介、国司信濃、岩国で自刃した福原越後等三家老、反対派の為 萩野山獄で処刑せられた竹内正兵衛、中村九郎、佐久間左兵衛、宍戸左馬介、前田孫右衛門、毛利登人、山田亦介、渡辺内蔵太、橋崎弥八郎、大和国之助、松島剛藏等十一烈士、俗論党的の為萩で自刃を命ぜられた清水清太郎、又幕府の萩藩征討の起因の責を感じ山口で自刃した周布政之助等、身を以て難に殉じた藩士の為 明治29年（1896）に建てられた慰霊墓所であります。

尚 墓所の右隅の三墓碑は選鋒隊士の為 明木権現原で暗殺された桜井三木三、香川半助、冷泉五郎等鎮静会議員の墓であります。